

米國ミヤゲ

一九〇

米國ミヤゲ
終

米國ミヤゲ終

附錄
滯米雜感

滯米雜感

坦

和三郎

米國ミヤゲの附録として滯米雜感と云ふ題目の下に。前後十二年間僕が米國各地に流浪して居つた間に。色々實地に見聞した事柄の中で。日本の方にはまだ耳新らしかろうと思ふ事を。少し計り書連ねて見やうと思ふ。

成程通り一遍の皮想的觀察から見れば。米國は恐らく世界文明のチヤンピオンであるかも知れない。人間の如才のない所から。始終洋服を着用して居る所から。毎日洋食を喰つて立派な西洋造りの中で寢起して居る所から。爺さん婆さんさては三才の兒童に至るまで皆悉く英語に熟達して居る所から見れば。中々ハイカラつた人種で日本の變則的ハイカラ者流が隨喜の涙を流して。有難がるのは實に無

理ならぬ所であるが、これは唯單に表面から覗いた計りの所謂皮想的觀察で。皮一枚引ンめくつた肉想的觀察とも云ふべきに至つては、まだ充分に御承知のない方があろうと思ふから。僕は左に二つ三つお話申さうと思ふのである。

○お坊ツちやん國

文明を以て富強を以て世界に誇つて居る米國は。其實何のことはないお坊ツちやん國で。開闢以來未だこれと云つて大した苦勞をした事のない國柄であるから。丁度何にも御存知のないお坊ツちやんが親の脛噛ちつてノツペラボウと大きくなつたのと同じ理屈で。事實一點の取得もないが唯無暗に威張りたがる計りで。親の威光で人に旦那様とか御主人様とかと奉つられて喜んで居る輩と同じで。考へれば可哀相なものであるのだ。金に飽かしてこしらへた立派な甲鐵

艦を以て西班牙の老朽した木造船に勝つた所で何がエライのだ。ゴタクに乗じて西班牙が持餘して居つた比律賓を取つた所で何處がエライのだ。僕が十二年間滯米して居つた間に。米國が兎にも角にも一騒ぎをしたのは只右の米西戰爭計りで。戦争と云へば云へる位の戦争に赤ン坊の手を捻上げたと云つて。世界の強國を以て自ら任じて居るのだから。丁度馬鹿旦那連がお山の大将おれ獨りと鼻うごめかして居るのと同じである。

お坊ツちやんには逆らはぬが唯一の得策。只持上げて置きさへすれば喜んで居るのだから。何か爲にしやうと思へば逆ふべき理由があつてもまづ胸をさすつて置くが肝心。日本外交家の對米策も内々此邊の寸法から。割出されて居るのだらうと僕は窺かに感服して居るのである。

○お調子もの

米人は大體に於てお調子もので。考へが至つて淺慕な様な點がある
 隨つて附合易くて友達としては誠にお手軽で面白い。此點に掛けて
 は日本人は人が悪くして腹に二重にも三重にも底がある様に。急に
 は自分の心底を現して呉れない。初對面同士でも米人は中々如才な
 く心置なく立廻るが。日本人は人を見たら泥棒と思へと云ふ奇妙な
 教訓が先入主となつて居るから。御互に睨みツくら計りして交際の
 一つも中々急には成立しない。

米人はお調子ものだから唯米國を賞めてさへやれば喜んで居るので
 僕等がよくやつた事だが。米國は日本のマザー、カントリー(母國)であ
 る。日本今日の文明を持來らしめたのは。米國當時の水師提督ペリ
 ー將軍の力に依るのだ。浦賀の砲聲一發は實に我日本の迷夢を破つ

て。爾來今日の日本あるを得たのは一に貴國のお蔭だ位にやつて見
 玉へ。お調子ものだから目を細くして喜ぶのである。何でも米人の
 意を迎へやうと思へば。無暗に持ち上げるに如かず。日本人同士な
 らば齒の浮く様な輕薄な追従でも。彼等の間には不思議にも成功す
 るのである。

可笑しいのは米國婦人で。所謂お調子ものの中のお調子ものだから。
 着て居る着物から帽子から靴から携帶品から。身體の恰好に至るま
 で一から十まで言葉巧みに賞めてやつて見玉へ。日本の婦人ならば
 怒り出すかも知れないが。米國の婦人は怒るところかアソ可くば接
 吻の一つも呉れ兼ねない程喜ぶので。至つて御し易い輩である。

○米國の娘と日人の藝妓

米國の娘は丁度日本の藝妓と同じで。娘のある家へでも遊びに行つ

て見玉へ。客を待遇するのは娘一人が引受けて。中々人慣れたもので色々話の緒を持出しては話しかける。ピアノを弾じる歌ふ笑ふ巫山戯る。丁度日本の藝妓がお客を待遇するのと同じ寸法である。時々客の隣りへピツタリ寄添つて坐りながら。サモ愉快に堪へない様な風を見せるから。氣の早い日本人などは獨りで己惚れて。此家の娘は乃公に惚れてやがるなどと思つて。入らざる金を使ふ者もあるが。決して惚れてもはれても居ないので。これが米國での習慣であるのだ。然し斷つて置くが米國の婦人は娘の間は品行頗る方正なもので。そんなじよそこの海老茶式部の或一派の様な醜聞は。未だ會て耳にした事もないのである。

○然りと雖も

僕が前節の末項に書いて置いた通り。米國の婦人は娘の間はと特筆

してある通り。結婚後に於ける彼等或一派の品行に至つては。敢て保證の限りにあらずで。現に米國重なる都會には到る所何々ホテル何々インなど云つて。まさか公然とも云ひ兼ねるがしかも立派な姦夫姦婦の密會所が設けられてあるのである。結婚後に於ける米國婦人は概して尻軽であると云つても差支はないのである。女尊男卑の弊害にあらずして何ぞや。

○教會堂の奇觀

表面基督教國を標榜して居る米國には。到る所教會堂があつて日曜日には朝ッばらから所謂信徒が數多く集まつて來るのである。宛かも日本の佛教徒が唯無意味に各寺院へ寄集まるのと同じ格で。信仰心などは何處へやら。只義務的儀式的世間並近所並に集つて來るのである。若い婦人などは芝居行と同じ様に今日を晴と着飾つて繰出

すのであるから。會堂内は丸で美服の共進會である。これだけならばまだしも甚しきに至つては。讚美歌を唱へる歌の聲までも競争する形で。誰れさんは可い聲だの何さんは節廻しが上手だのと。丸で寄席へでも行つた様な積りで居るのだから。牧師が幾ら熱心に説教して聴かしても。馬の耳に風程にも感じて居ない。唯若き女は若き男を。若き男は若き女をのみ注意注目して。神聖なるべき教會堂は宛かも不義野合の媒介所であるかの如き奇觀を呈するに至つては。宗教家の口調ではないが。世も又未なりと慨嘆せずんばあるべからざる次第ではないか。

附錄 米雜感終

11/5/40
12月 4日 下
6

明治四十年四月廿五日印刷
明治四十年五月一日發行

米國ミヤケ附

正價 金四拾八錢

著者兼
發行者

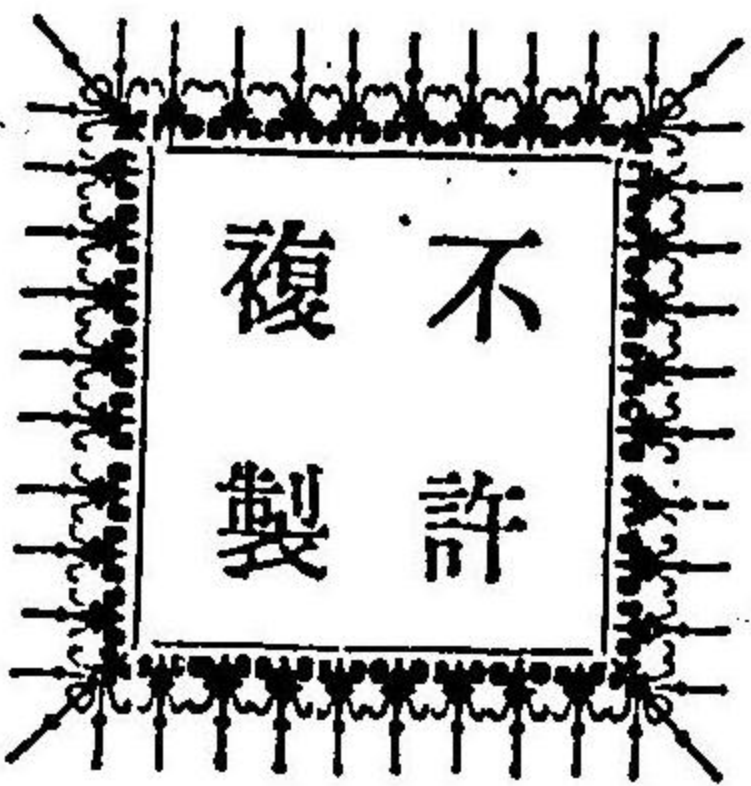
大阪市東區大川町二十三番地
坦 和 三 郎

印刷者

山 本 完 藏

印刷所

大阪市西區阿波座二番町一番地
堀 越 日 進 堂



發兌元

大阪市淀屋橋南詰

テンマヤ出版部

謹告

四方の各位愈々御健祥に御座被遊欣賀此事に奉存候。陳れば小生儀本年一月米國より歸朝致候以來日尙淺く。何分永年滯米致居候事として。未だ日本の事情等に精通致し居らず。旁々以て各位の御指導に預からずんば。今後如何ともする能はざる次第。希くは永當の御愛顧を賜はり度伏て奉懇願候。

就ては米國の國情其他に就ては。聊か承知致居候積りに有之候に付。何かと御下問被成下候は。喜んで御回答可申上。尙又日米貿易に關する一切の事は。幸ひテンマヤ貿易部北米代理人米國商業學士片山禮三。目下ヴワシニア州ノーフブークに於けるヂエイムスタウン大博覽會に出張滞在致居候に付。是又何かのお役に相立可申と奉存候。請ふ永久の御交誼を下し給はん事を。尙々小生事自今テンマヤ出版部に勤務罷在候に付。御通り懸けの節は何卒御立寄被下度偏に奉希上候。

明治四十年四月

米國文學士

米國法學士

和 三 郎 謹 白



米 國 文 學 士
米 國 法 學 士

和 三 郎
像

テ マ ヤ

營 業 科 目

出版部

廣く内外著述家の新著なる傑作を歓迎し隨時出版可仕候

雜貨部

日本製之外國製を問はず普れく新式有功の化粧用品、文具、其、他、歐、米、雜、貨、小、間、物、類、を、専、賣、し、江、湖、各、位、の、御、高、需、に、可、應、候

貿易部

米國ヴワシニア州ノーフブークに於けるヂエイムスタウン大博覽會々々場内に臨時出張所を設け米國內商業學士片山禮三を以て其任に當らしめ専ら日米國產の輸出入に從事仕候

通信部

米國事情に關する御諮問に應じ人々を爲め特日本部に譯者等し外に英文起草通忠實に御取計可申上候

大阪市淀屋橋南詰

テ マ ヤ

不相變御引立の
程伏而奉希候

大阪市中心齋橋通り南久寶寺町南へ入

時計ダイヤモンド
寶石貴金屬美術品 商 石原時計本舗

(電話特東五一七番) 振替貯金三八七二番

同所 (時計本舗南隣)

欧米寫真機直輸入 石原寫真機部

(電話東五一七番) 振替貯金四六五八番

同 市中心齋橋通り博勞町角

日米自轉車直輸入 石原自轉車部

(電話東二二四五番)

同所 (自轉車部北隣)

欧米樂器輸入並製造 石原樂器部

(電話東二二四五番) 振替貯金六〇九六番

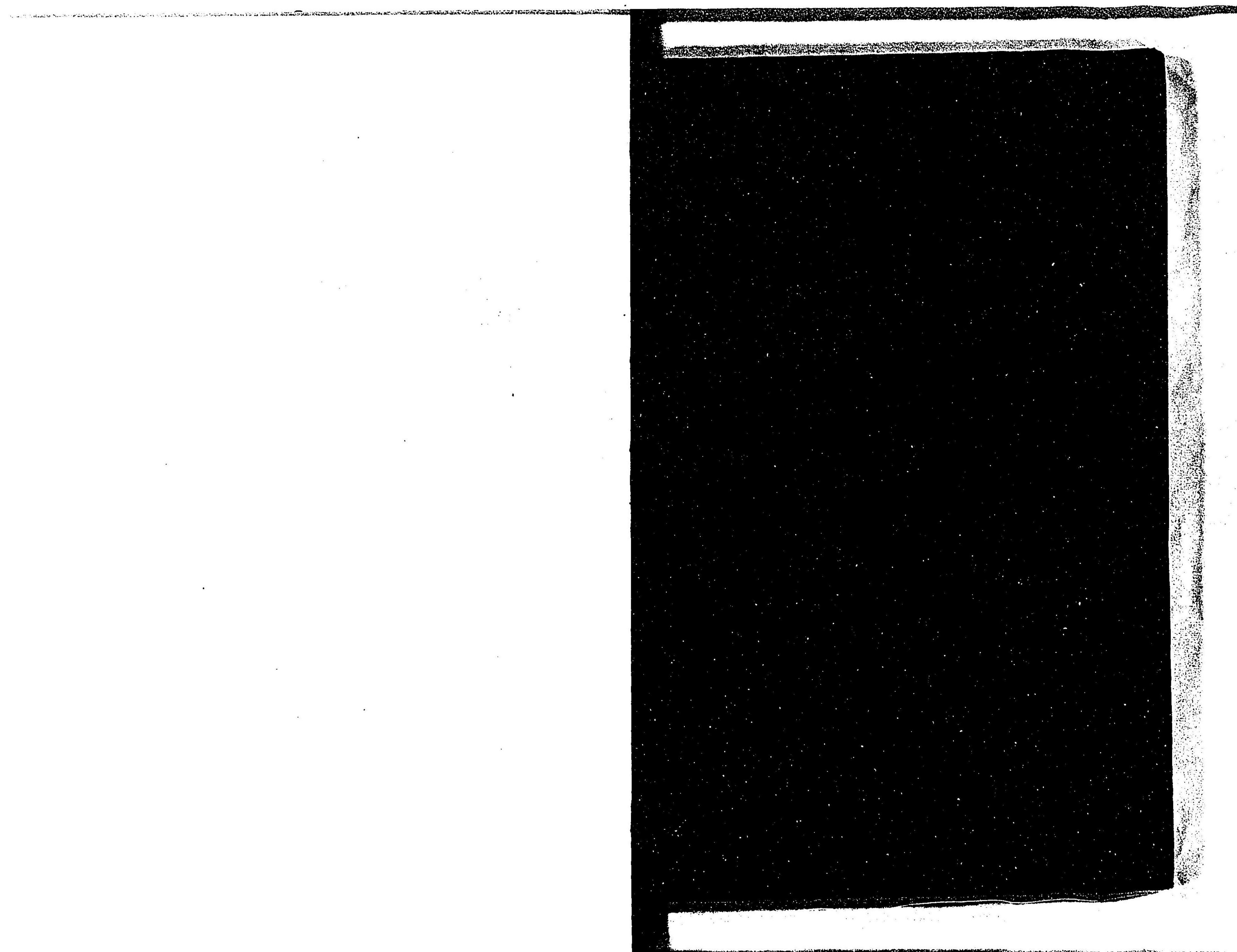
アルミニウム製品各種
歐米雜貨裝飾品色々

江湖各位の御眷顧を辱ふし業務日に増し盛域に立至り候段謹而奉鳴謝候就ては益々精勵勉以て各位の御厚恩に酬ひ可奉大は日用厨房の諸什器より小は紳士淑女様方の雜貨裝飾品に至るまで弊店年來の店規たる確實正價を以て貴需に可應候に付何卒倍舊の御引立に預り度伏て奉懇願候

大阪市中心齋橋通り博勞町南へ入

皆美堂 佐藤 三





97
437

026954-000-1

97-437

米国ミヤゲ

坦 和三郎 / 著

M40

ADG-0079



4